

第 26 回 松江開府を成し遂げた堀尾家に関わる石塔群—高野山奥之院—

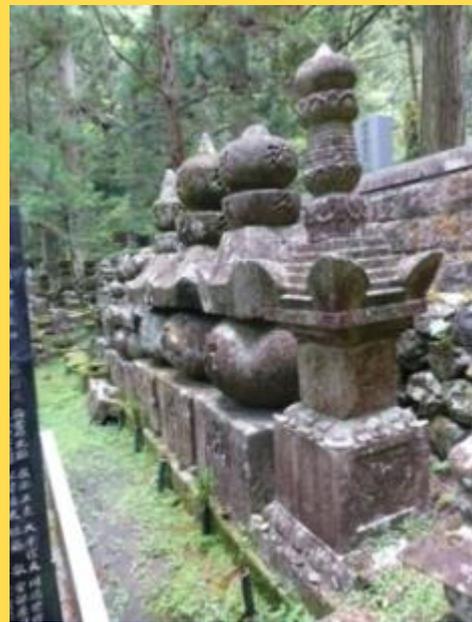
松江開府を成し遂げた堀尾家の墓所は島根県内だけでなく県外各地にもあり、県外では妙心寺春光院(京都市)、養源寺(東京都文京区)、高野山奥之院(和歌山県高野町)が知られています。そのうち春光院と養源寺の墓所については、すでに石塔調査が行われています。

このたび、高野山奥之院に所在する堀尾家墓所の石塔調査を行いましたので、その概要を紹介します。なお、この調査は、松江市史編纂事業の付帯調査である石造物調査の一環として、2012年10月14日～16日に、松江市史編集委員の西尾克己先生、編纂室の稲田室長と木下が行ったものです。

高野山奥之院の入口である一の橋から弘法大師の御廟までの約2kmにわたる参道沿いには、諸大名の石塔などが数多く林立しています。堀尾家に関わる石塔群も一の橋から中の橋にいたる間の参道脇にあります。海軍整備練習生慰霊碑などが建つ平坦面の奥と左側に、堀尾家に関わる石塔がひそかに並んでいます。その数は五輪塔9基と宝篋印塔4基のあわせて13基になります。



堀尾家墓所正面



ひそかに並ぶ堀尾家に関わる石塔群

(海軍整備練習生慰霊碑の奥に、堀尾家に関わる石塔が並ぶ)

18世紀の高野山奥之院の絵図(宝永4年(1707)の「奥院絵図」と寛政5年(1793)の「高野山奥院総絵図」)をみると、正面に鳥居を配して周りを玉垣で囲む堀尾家墓所が描かれており、玉垣に囲まれた墓域内には大小24基

の石塔が所狭しと4列に並んでいます。絵図の描写が正しければ、18世紀の堀尾家墓所は、現在の2倍近い数の石塔と現在より広大な墓域を有していたことになります。

今回の調査で確認した堀尾家に関わる石塔のうち、五輪塔の被供養者は堀尾吉晴、堀尾忠氏、堀尾忠晴、松村監物、堀尾頼母助政家などで、宝篋印塔の被供養者は堀尾忠晴娘(石川廉勝妻:憲之母)、堀尾民部、堀尾勘解由などです。堀尾家当主(吉晴・忠氏・忠晴)の墓には五輪塔が採用されています。

石塔の高さをみると、堀尾家当主と忠晴娘の石塔が250cm以上の大型、堀尾民部・松村監物といった上級家臣層の石塔が200cm前後、堀尾頼母助政家などの石塔が170cm以下となっています。生前の地位などが石塔の規模に反映されているのでしょう。

ちなみに、「慶長十二年四月日」の銘を刻む堀尾吉晴と「慶長九年八月四日」の銘を刻む堀尾忠氏の二人の堀尾家当主の五輪塔は、慶長年間(1596～1614年)の砂岩製五輪塔としては、高野山奥之院の中でも最大級の大きさを誇るそうです。

なお、今回の調査成果は本年発刊予定の『松江歴史館研究紀要第3号』にて報告することになっています。詳しくはそちらをご覧ください。

【参考】

- ・松江歴史館『松江創世記 堀尾氏三代の国づくり』2011年。
- ・岡崎雄二郎・西尾克己・稲田信・樋口英行・佐々木倫朗・松原祥子「春光院に所在する来待石製石塔群について」『松江市歴史叢書1』松江市教育委員会、2007年。
- ・西尾克己・稲田信・佐々木倫朗「白華山養源寺(東京都千駄木)に所在する近世大名堀尾忠晴石塔について」『松江歴史館研究紀要第1号』松江歴史館、2011年。
- ・日野西眞定編著「奥院絵図」「高野山奥院総絵図」『高野山古絵図集成/解説索引』タカラ写真製版株式会社、1988年。
- ・西尾克己・稲田信・木下誠「高野山奥の院に所在する堀尾家墓所について」『松江歴史館研究紀要第3号』松江歴史館、2013年(予定)。

(平成25年2月25日 文化財課史料編纂室 木下誠)